

WIN CONCORD

ウィンコンコード

NEWSLETTER

2006
vol. 16



異文化との付き合い

国際交流コーディネーター 時光(中国)

異文化という言葉を目にした時、皆さんは何を想像しますか。言葉が通じなくて、どうすればよいか分からず、戸惑うことですか。それとも、文化の違いでつい距離を感じるのですか。確かに異文化というと、共通する文化よりも異なる文化の方が注目されやすいでしょう。しかし、私は異文化を異なる文化ではなく、共通する文化の中にある一部だけの異なる現象として解釈したいのです。ここでまず文化に対しての定義について触れておきたいと思います。人によって文化への解釈が様々ですが、私は人間としてより良い生き方ができるために努力することこそ文化だと思います。このように考えると、国や習慣に関係なく、全ての人がほぼ同じような日常生活を繰り返しており、共通するところが意外と多いことに気付くでしょう。世界に様々な国があり、多様な生活習慣が同時に存在しているのは事実です。しかし、いくら国や生活習慣が様々であるとはいえ、それはあくまでも生きていくことが外に現れている現象に過ぎません。人は誰でも生きるために食事を取り、又仕事をしたり、好きなことを楽しんだりするのです。この点において万国共通といえるでしょう。その仕方が多少異なっても全てが生きていくための活動です。生きていくために様々な努力をすることは私たちの共通する最も大きな文化です。その最も大きな文化の中にある一部だけの現象の違いが異文化だと思います。

外国文化といえばほとんどの人が思わず自国文化との相違点を先に思い浮かべるでしょう。国によって現象としての文化が違ってくるのは確かなことです。そのため、各国に多様な習慣が見られます。勿論習慣の違いを知ることが大事です。しかし、相違点を認識すると同時に、もっと大切なことを忘れてはいけません。それはお互いに共通する文化のことです。一見違うように見える異文化であっても、よく考えると根本的なことが実に同じであったりするのです。一つのわかりやすい例を挙げてみましょう。タバコは健康によくないので、他人にタバコを勧めるのは日本人にとっては迷惑なことです。それに対して、中国人は平気な顔で積極的にタバコを他人に勧めます。タバコが健康によくないにも関わらず、中国人はなぜ他人に配ろうとするのでしょうか。恐らく日本人が

から見ればどうもこの中国文化は変に思うほかないでしょう。ところで、少し視点を変えて考えてみれば、違う答えが見えてくると思います。日本人が理解しがたいこの中国文化にはわけがあるので。タバコを吸うことによって、疲れが解消され、リラックスできると言われています。そのため、中国人は友達にタバコを配り、一緒に吸うのです。日本の文化とはずいぶん違いますね。しかし、他人にタバコを勧めない日本文化にせよ、友達にタバコを配る中国文化にせよ、相手を思う気持ちは一つです。異文化とはいってもやはり人間の気持ちが共通しているのではないのでしょうか。

国や生活習慣などに関係なく、私たちは全て生きている同じ人間です。目に見える現象としての文化が多少異なっても、人間としてより良い生き方ができるために様々に努力するのは皆一緒です。人は誰でも真・善・美を愛すると信じています。国を問わず、真・善・美を目指したい人間の本质は一つであります。そのため、私たちは周りの様々な国から来た留学生たちと仲良く生活できているのです。だから、異文化とは万国共通の生きる文化の中にある一部だけの異なる現象のことだと思います。現象が異なっても根本的な物は同じです。このように考えれば国の違う私たちでありながら、皆同じ人間として一人一人は大切な仲間だと思います。

二回目の花見

楊迪(中国)

先日、今年度の新しい留学生達と一緒に和歌山城で美しい桜を見て楽しみました。ピンク、白の桜の花は午後の光の中で軽い風に揺れて、花びらが青空の中を舞い上がり、更に久しぶりのいい天気に恵まれ、桜の花は和歌山城に映って、中身の美しさを完璧に見せてくれました。

「きれいだな〜!」と呟いたところ、ふと頭の中いっぱいあることが浮かんできました。なぜなら、ちょうど一年前に同じ場所に立った私の姿を思い出したからです。「今度の花見は私にとっては1年ぶりの2回目です。それで、1年前の私はどんな子でしたかな?」と知らず知らずのうちに私は考え込んでしまいました。

1年前の4月2日、私はまったく知らなかった日本の土地に踏んだその瞬間、正直に言うと不安

の気持ちなんかあんまりなかったのです。その代わりに、不案内な土地に対する好奇心がたっぷりでした。私の考えとしては、好奇心が新しいものを探求する一番の要素です。珍しい物事、未知の事柄に対する興味はその時の私を進歩させるパワーの源でした。私は自分の好奇心のおかげで、日本語の勉強が進むとともに、日本の文化と日本人の生活習慣との触れ合いも気に入ってきました。

日本に来てからの最初のイベントは桜の花見でした。1年に1度しか咲かないこの開花の短く、散る艶やかな美しさに私は酔いました。春の到来を知らせた桜は日本への第一印象を私の心の深いところまで刻み込みました。桜は物事の始まりのシンボルで、私の日本での生活も桜の満開と一緒にやる気満々でスタートしました。

会館から学校までの道の遠さを気にせずに勤勉に走っていた私、授業をサボることなく定刻に出席した私、まめに部屋と廊下の掃除をした私、少林寺拳法というクラブで懸命に突き蹴りをした私、バイト先で毎日店長に褒められてもご褒美を受けない私、それは当時のありのままの私の姿でした。私は日本で楽しく、充実した日々を送っていました。「月日が経つのは速いものだ」このことわざが言ったとおり、時が人を待たず、過ぎ去っていきます。

それにつれて、私の体の中で何かが変わってき

ているような気がしました。それは自分が怠けるようになってきていることです。「授業にちょっと遅刻しても先生は文句言わないから、寝坊してもかまわないだろう；廊下の掃除はどうせ誰もやらないから、ほっといたらいいじゃない；ごみの日じゃないけど、捨て場にもうごみが溜まっていたから、通行人のいないうちにゴミをほっとこう；バイト先の仲間もずる休みするから、自分もたまにしても気づかれないでしょう」。

私の日本語のレベルが上がっているし、日本文化と日本人の生活習慣に対する理解も深くなってきていると思います。でも、何で自分の体の中でこんな微妙な変化があったのでしょうか？見た目ではそんなにたいしたことじゃないようですが、このまま放任したら、どうなるでしょう？自分は反省すべきじゃないかと思いました。

美しい桜の花を見て、私はちょっと変なことを連想してしまいました。なんだか、去年のありのままの私に戻りたいのです！

桜は開花が短いですが、その美しさと純潔さが人に感動を与えます。それだから、桜が愛されているのではありませんか！人間の人生も短いですが、素直に美しい一面を見せれば、もう悔いはないと言えるでしょう！2回目にスタートを意味する桜を見て、私は留学生活の新たなページをめくろうと思ったのです。



スロベニア

ユトラジュ マテヤ (スロベニア)

スロベニアは中部ヨーロッパに位置し、小さいめんどりのような形をし、イタリア、クロアチア、オーストリアとハンガリーに囲まれている国である。スロベニアには、地中海地方、アルプス地方、パannonia地方という、ヨーロッパの中でも三つの違った世界が隣り合わせに存在している。国土面積は約2万平方キロメートルであり、四国よりちょっと大きい。スロベニアは地中海の最南端トリエステ湾に40キロメートル弱の海岸線がある。夏の平均気温は21度であり、冬の平均気温は0度である。人口は約200万人で、人口の多くは首都リュブリャナ、マリボルなどの大都市に集中している。スロベニアにはハンガリー人やイタリア人の少数民族も住んでいるので、スロベニア北東や南西には二か国語の学校がある。

スロベニアはバルカン半島北西部にあり、少し前までユーゴスラビア共和国の一部だった。この地域の最初の開拓移民はカラantanツィという民族だった。6世紀に住み着き、7世紀に一番目のスロベニアの州、公国カラantanニヤを建国した。745年にはカラantanニヤはフランク王国の一部になり、カトリックを受容し、次第に自立を失った。スロベニア語で書かれている最古の遺跡は10世紀にさかのぼる。そのあとはオーストリアが領主として発達した。16世紀の宗教改革のときに、ハプスブルグ家によりプロテスタントは追放され、スロベニアの聖書もでき、国民の意識が高まった。それで、1845年、スロベニア人はオーストリア帝国の中の一州になる要請が出た。第一次世界大戦のあとスロベニアの地域は三つに分かれた。1918年、セルビア人クロアチア人スロベニア人王国として独立した。第二次世界大戦中枢軸国に占領された



が、パルチザンが解放し、1945年ユーゴスラビア連邦を結成、その一共和国として社会主義体制をとった。連邦の中で経済面では先進国であったこととスロベニア民族主義が結びつき、1991年6月25日ユーゴスラビア共産主義同盟から離脱し、独立した。1992年UNの常任会員になって、2004年にEUに入った。

文化に基づき、スロベニアのナショナル・アイデンティティが生まれた。毎年1万以上の演奏や28国際フェスティバルが行われる。リュブリャナ町の広場でも、軍神の像が全くなく、その代わりに詩人の像がある。これはフランツェ・プレシエレン、スロベニアの国歌の作詞家である。

「乾杯の詩」

日が昇るところ、
争いはこの世から消え
誰も自由な同胞となり、
境を共にする者は、
鬼ではなく、隣人となる、
その日を待つ民すべて久しかれ。

(以上スロヴェニア国歌より抜粋・重盛千香子訳)

スロベニアの特徴は沢山あり、その中のいくつか紹介したいと思う。コブレツは干し草を片付けるための独特の木造建築であり、スロベニア全土に見られ、他の国には決して見られないものである。それに、カルストというのはスロベニアのカルスト地方に見られる特有な地形から名前をもらった。その中の有名なのはツェルクニツァ湖である。それは見えなくなったり、再現したりする。

スロベニアの生態系最も敏感な動物はホライモリという盲目の両生類がいる。ホライモリは皮膚が肌色のため、「人間魚」とも呼ばれている。こ

の動物はスロベニアの一番有名な洞窟ポストインスカ・ヤマで見られる。スロベニアの一番高い山の名前はトリグラウで、2864メートルである。トリグラウはスロベニア民族の象徴である。

森が国土の50パーセントを占めていて、沢山の山の人々に「緑の国」と呼ばれている。4分の1の農地は高い連山、丘やカルスト地形にあるので、農業の自然の状況は余り好ましくない。だから、農場はほとんど小さく、農業では人口の3%しか働いていないので、農業はGDPの5%だけである。その中の一番大事なのは畜産である。地域の景色のように、食べ物の多様性に対し、スロベニア人は誇りに思っている。1200以上の伝統的なレシピの中に、特にスープや肉とソーセージの調理が多いである。それぞれの地域で、独特なパンの種類が作られている。それに、伝統的なお菓子の中で有名なのはポティツァとギバニツァである。それから、2400年前ローマ人はブドウ栽培とワイン醸造を広げた。スロベニアの養蜂は長い歴史がある。ゴレンスカ地方の蜂は、スロベニア固有の蜂の種類で、世界中で二番目に多い蜂の種類で、世界中に広がっている。

まだ書きたい事が沢山ありますが、今回はこれで終わります。

銀色の世界

王 鳳娟 (中国)

トヨタ見学とスキー旅行、何ヶ月間も期待した。2月21日やっと旅についた。すごく興奮する。早く起きて片付けて荷物を持って玄関に下りたら、あら～みんなもう来てる。早いねえ。やっぱり私のようにわくわくして早く出発したいねえ。バスに乗って窓に近い席に座った。「よし、出発!!」

はじめの行き先は愛知県のとヨタ会館だった。小雨がしとしと降っていた。バスから降りると、冷え冷えした風が体に吹き込んできた。

トヨタ会館に入るとすぐに、奇異な模型が目に入ってきた。それを見たら、SF小説での宇宙飛行船が思い出された。スタッフの説明を通して、未来のアイユニット(i-unit)というもので、それを通じ、交通事故や渋滞がなく、誰もが車を運転できる社会を提案したということが分かってきた。きれいなモデルさんはアイユニットに乗って、実演をみせてくれた。操作は確かに簡単だね。二つのロータリーを自然に手で持つだけで、方向を変

えるうえに、随意に高低をコントロールできる。おもしろいなあ。ああ～やってみよう

次は、ロボットの演奏の時間になった。ロボットはいろんな曲を吹奏できるだけじゃなくて、体の姿勢も変える。まるで音楽の世界に思いにふけている芸人みたいね。すごいね。未来の世界では、まさかSF小説の書いたように、ロボットの世界になるんじゃないか。そのロボットを見たら、そんな可能性はないとは思えないと思えてきた。

ここでは車作りのプロセスが模型付きで展示されている。しかも中、英、日の説明が付いている。これらの模型や実演からもトヨタ車作りの科学性と厳密性が十分に見える。ショールームに入ったら、びっくりした。ここでは約20台の新型車を展示していて自由に乘れる。超かっこいい!! みんな各自自分の好きな車に乗って、この心地よさを試してみる。車の内部は全部電動地図があって、それはすごく便利なもので、ただ地名だけ入力したら、目的地に導く。だから、これがあれば道が分からなくても大丈夫だ。

当館では、トヨタが目指す豊かなモビリティ社会と最新の自動車技術を展示している。そして21世紀、私たちのよりよい明日のために、ハイブリッド技術や安全技術を進化させ、地球温暖化や交通事故の問題を克服し、クルマの利便性や夢・感動を世界中の人に提供してくれている。

二つ目の旅先は世界遺産の白川郷だ。バスが走るとつれて、外の景色も移り変わってくる。雪なしからわずかの雪、そして雪の厚さが少しずつ増えてきて、まるで四季の変化のように、本当に奇妙だねえ。

白川郷に着いたら、すぐこの景色に目が引き付けられた。まるで雪の世界に入った。土地、木、屋根は全部雪を覆っている。すごくきれいだ。そんなに厚い雪は初めてだ。うれしくてたまらなかった。



この家はずいぶん特別で、屋根は全部人の字の姿で、急傾斜となっている。またちょっと不思議なことを発見した。通りの辺には結構厚い雪が積もっているけど、屋根の上の雪はそんなに厚くない。地元の方に聞いたら、それは「合掌造り」の働きだということが分かってきた。「合掌造り」は、叉首構造の切妻屋根とした茅葺きの家屋で、一般の日本の民家に比べて規模が大きく、屋根の勾配が急傾斜となっている。このような形式の家屋が造られたのは、降雪に対処するためだ。それは日本人の知恵の結晶だねえ。

6時にホテルに到着。結構いいホテルだねえ。夕食はフランス料理だ。すごくおいしかった。ワインとフランス料理を合わせて、最高だ!! 夕食後、ていと春と一緒に温泉に入るつもりだけど、途中で韓さんに会って、「すごくおもしろいところを見つけたぞ、一緒に行こうぜ」って。「ほんま? どこ、どこ!」私たちは韓さんの後をつけて、長い回廊を通して、リフトに乗った。秘密任務を遂行する気がした。リフトのドアがやっと開いた。開いた瞬間びっくりした。皆さん、何を見たと思う? i-unit だ。興奮しすぎた。私たち、こっそり順番に乗ってみた。運転できないけど、ちょっと乗ってみても満足だ。はは〜それから、温泉に入った。温泉でこの一日中の楽しい旅を思いながら、一日の疲れを取り除き、気持ちいい!!

翌日はスキーだった。今まで一番あこがれていた時が来た。ひるがの高原スキー場に入って、一面銀色の世界が目の前に現れた。すごく美しい!! だけど、どうしても目を開けにくい。なんか強烈な光が目に入る気がする。あ〜サングラスを持ってきたらよかったのに。失策だ。まあ、スキーのことを思ったら、そのぐらいものはぜんぜん気にしなかった。

レンタルのところでは、スキー用のスキー板、ブーツ、ストックを全部用意してくれた。その上に書いた自分の名前を見たら、いきなり心が温かくなった。スキー用の道具は全部各自のスキー服の色と一緒に。ありがとうねえ、先生。中谷先生はよく考えてくれたねえ。ブーツを見たら宇宙飛行士のことが頭に浮かんできた。履いたらすごく重いねえ、ちょっと歩いても辛かった。1メートルほどの長さのスキー板を抱えて、やっとのことで集合の場所に着いた。あら、手袋をレンタルの所に忘れちゃった。悔しいなあ。「ばか者じゃ、何で今頃いつもの癖がまた出たの。」しょうがなくて、取りに行くしかなかった。

初めてスキーをするので、ぜんぜん分からなか

った。スキーの先生はスキー板のつけ方から、歩き方、止まり方、すべり方まですこしずつ教えてくれた。最初、私はかなり後れていた。どうやっても前に進めなかった。ずっと前の友達を見て、焦ってたまらなかった。もし、その時やめたら、何もできない。だけど、私、頑張って少しずつなれてきた。それで、リフトに乗って、山腹に着いた。ここから、ふもとへスキーをする。花田お父さんは私のスキーの先生だ。ずっと前も花田お父さんはスキーが大好きだって言ったことがある。今は花田お父さんのスキーをする姿を見たら、うらやましくてたまらなかった。めっちゃカッコいいねえ。私もやってみるわ。何回も何回も転んだ。あ〜痛い!! だけど、花田お父さんはずっとスキーのこつを教えてくれて、私、少しずつ上手になった。風にのってふもとまですべって行って、気持ちいいなあ。

スキー場でみんなも何回も転んだけど、また立ちあがって、やり続ける。みんなのがんばる様子を見たら、偉いなあと思っていた。(もちろん、自分も偉いっていうことだよ)。スキー場は人生の道にたとえられる。何事もなく順調に過ごしてきた人はそんなに偉くないと思う。人生の道で、転んでもまた立てる子が偉いと思う。私たち留学生はスキー場でよくできたから、これからの人生の道でもよくできると思うわ。

二日間の遊びでみんなも疲れちゃったねえ。だけど、一番疲れるのはやっぱり WIN の先生たちだねえ。お疲れ様〜先生。

今回の旅はすごく楽しかった。人生の道で、日本にいる一年間のことを振り返ると、それは絶対忘れられないことだ。毎年新しい顔を迎えて一緒に旅を続けるだろう。WIN のメンバーにも、新しい留学生にも、これからの旅を楽しんでねえ。



心から出たものは心に届く

2004 年津波募金活動のこと

ティティン・ファティマ (インドネシア)



2004 年の年末に起きた大惨事は世界中に衝撃を与えました。インド洋で起きた大地震が驚異的な津波を引き起こし、多数の人々が死傷し、周辺の地域に大きな被害をもたらしました。スリランカ及びスマトラ島 (インドネシア) を含む 11 か国が津波の被害を受けました。インドネシアは地震と津波で甚大な被害を被り、スマトラの北部及び西部の沿岸地域やスマトラ島から離れた小さな島々も浸水しました。犠牲者と被害のほとんどはアチェ州に集中しました。

インドネシアの国家災害救助調整機関によると 126,916 人が死亡し、37,063 人が行方不明です。2005 年 1 月 25 日、インドネシア保健省は、死者数を 220,000 人と訂正しました。加えて、国連は 655,000 人が家を失い、州内の避難所で避難生活をしていると見ています。

この大惨事は世界から哀悼されるとともに、これらの被災国に対し多くの国々から寄金が送られました。多くの人達が被災者を救済するための募金活動を行ってくれました。

和歌山大学留学生会会は WIN コンコードの支援を受け、津波惨事の被災者を救済するための募金活動を始めました。留学生達は WIN コンコードのボランティアの人達とともに、募金箱やパンフレット、看板などを作りました。

募金活動は 7 日間計画され、2005 年 1 月 3 日から 10 日まで続けられました。募金活動は、マリーナ・シティー、JR 和歌山駅前、和歌山市駅前、ピ

ッグ・ホエールなど公共的な場所で行われ、この期間以外でも職場や団体など多方面から募金をいただきました。募金活動には毎日、25~35 人の WIN コンコード会員、和歌山の留学生、インドネシア人研修生、日本人学生など多くのボランティアの人達が参加してくれました。募金は銀行振り込みでも行われ、情報は公開されました。

2 月までに募金は 2,000,000 円に達し、1,000,000 円はスリランカに贈られ、1,000,000 円は日本インドネシア留学生協会 (PPI-JEPANG) を通じてインドネシアのアチェに贈られました。PPI-JEPANG は同時に日本中で募金活動を行いました。寄金はインドネシアのアチェで津波の被災者を救済するために活動している信頼できる NGO を通じアチェに届けられました。

寄金は、津波被災者への食料品や衣服の支給、地方のボランティアの供給、配給品の輸送、・教育施設 (小学校) の再建、学校運営基金、生徒の奨学金などに活用されています。

ボランティア

PPI-JEPANG は日本の NGO (津波留学生帰国支援)、ガルーダ・インドネシア航空と共同で PPI の 2 人の代表を含む 14 人のボランティアをアチェへ派遣しました。

小学校

この小学校はアチェ州のマシドラヤサブ地区のネウヘン村にあり、6 教室と 1 事務室、6 つのトイレ及び運動場がありますが、2005 年 9 月に再建が完了しました。

スリランカ及びインドネシアからのメッセージ

今回の津波について早速募金をして下さったすべての個人、家族、団体及び機関の方々に心からお礼申し上げます。お寄せいただいた寄金は津波で家を失った被災者の家及び生活の復興に活用されています。ありがとうございました。



新留学生紹介

潘 仲 (中国)

初めまして、潘仲と申します。商務日本語の2年生です。これからどうぞよろしくお願い致します。

和歌山大学と東北財経大学の第1回の交換留学生として、僕はとてもうれしいです。僕の家は中国遼寧省海城市です。僕の大学は大連にあります。

日本に初めて来た時、寂しくなると思いました。でも、よかった。この人はやさしいです。僕はだんだんと適応すると思います。日本と日本語に大変興味を持っています。純粋な日本語を話すために一生懸命勉強したいと思います。

大連は日本人が多いです。そして、たくさん日本の会社があります。僕の大学にもたくさん日本の留学生がいます。その中に、北海道からの日本人友達があります。彼は大晦日に僕の家に来ました。一緒に中国の春節を祝いました。

僕の日本語の先生は神戸出身でとてもいい人です。今年28歳ですので、僕と仲良い友達になりました。彼女にいろいろお世話になりました。

日本にいるこの1年間、僕はできるだけ勉強します。そして日本人の友達と付き合いたいです。将来中国と日本の間で商売をしたいです。中国と日本のために、ぜひ日本と中国の関係ももっと良くするために頑張ります。

佐藤 セルソ 隆広 (ブラジル)

私は日系ブラジル3世です。国費留学生でブラジルのサンパウロから来ました。教員研修生のプログラムです。

10月6日に大阪空港(伊丹)に着きました。大阪大学で5ヶ月日本語の勉強をしました。私の専門は体育です。ブラジルでは学校の先生とパーソナルトレーナーとして働いていました。学校では幼稚園生から高校生まで体育の授業で教えていました。パーソナルトレーナーとしては、オートバイのドライバーやテニスの選手や筋肉を作りたい人や普通の人の体の訓練などをしていました。私の趣味はスポーツです。得意なことはフットサルとキックボクシングと一番にウェイトトレーニングです。

私は留学するつもりは初めはありませんでした。例えば、仕事はもう決まっていたし、彼女もいましたから。日本へ来た最初の3ヶ月はとても大変でした。悲しかったし、懐かしかったし、友達もいなかったし、そしてブラジルの文化とぜんぜん違うので、とても大変だと思いました。

今はもう日本の生活に慣れたし、大阪大学でもたくさんの友達もできたし、もう国へ帰る気持ちがなくなりました。

この1年間和歌山大学で専門の勉強をします。大阪と違って和歌山の生活にも慣れたいし、日本の文化もたくさん覚えたいし、そして和歌山に住んでいる母のおばさんと会いたいと思っています。

これから皆さんよろしくお願いします。



アリザ ウォウイ (フィリピン)

正直、率直、賢明、これが私の学生や同僚達が私を描写する時使う言葉です。しかし、実際、私は、平凡な人間でウォーズとかウォースキーと呼ばれています。私は故マルコス大統領がマーシャルローを宣言した2年後にフィリピンのライスグラナリ州で生まれました。この14年間、私は化学を教えることに専念しています。10年間は、フィリピン科学高校 (the Philippine Science High School Cagayan Valley Campus) で教えていますが、学生達は特に科学と数学に才能のある選ばれた学生たちです。彼らの未来に役立つようベストを尽くしています。

文部科学省の奨学生として来日でき、単に自分の専門を勉強するだけでなく、日本文化に深く入る経験は新しいチャレンジです。

澄んだ空気、美味しい食べ物、豊かな自然。長い歴史と現代の繁栄のほどよい調和、このような地に生活することは、これからの人生の宝物となるでしょう。

この1年、家族や私のペット (魚と犬) と離れて暮らすことになりましたが、この経験はその寂しさを超える価値あるものになると思います。この素晴らしい魅力ある国から多くのことを学ぶことを確信しています。

モエ ティダ (ミャンマー)

私の名前はモエ ティダです。モーと申します。ミャンマーから来ました。私は教員研究生です。専門は数学教育です。私は数学の先生です。私は先生の生活が好きです。先生の生活は大変です。でも楽しかったです。

去年の10月に日本に来ました。私は日本語と日本の教育システムと日本の文化、日本のライフスタイルを勉強したいから、日本に来ました。日本はとても綺麗な国です。日本料理もおいしいです。私は大好きです。

大阪大学で6ヶ月日本語を勉強しました。大阪に友達がたくさんいます。大阪でミャンマー人の友達と昼御飯と晩御飯を一緒に食べていました。どこにも一緒に行きました。外国人の友達も親切です。大阪大学の先生たちもいいです。それから大阪で私の生活は楽しくて、おもしろかったです。

今は和歌山大学の留学生です。留学生会館に住んでいます。和歌山に来る時、私は寂しかったです。でも今は新しい友達がたくさんいますから、うれしいです。毎日大学に自転車で友達と一緒にいきます。でも会館から大学は遠いから、大変で



す。和歌山大学で日本語と私の専門を勉強しています。私の国に帰ったら私の知識と能力を同僚と学生のために生かしたいと思います。

レズワン アブ サマー (マレーシア)

はじめまして！私はマレーシアから来ました。システム工学部の光メカトロニクスです。今から4年間よろしくお願いします。趣味はジョギングすることです。誰か和歌山を知っている人はどこがおもしろいところか教えてください。

私はマレーシアで2年間日本語だけでなく、物理と科学と数学を勉強しました。本当に大変でした。1年生の時、宿題ばかりやりました。その時、日本語を初めて学んで、大変たくさん覚えなければなりませんでした。毎日だいたい13個の漢字なのでした。でもあきらめないで、一生懸命勉強して、友達と一緒に合格して、2年生になりました。2年生で宿題が少なくなりました。でもテストはたくさんありました。一番大変なのは物理のテストでした。問題が難しく、理論もたくさん覚えなければなりませんでした。もしそのテストができなかったら、もう一度テストを受けなければなりませんでした。毎日テストをやって、頭が痛くなりました。でも我慢して、最後に文部省試験に合格して、日本へ行けました。だから今までの頑張る気持ちを続けて、4年間で卒業したいのです。皆さんと一緒に頑張りましょう！

ワイシア クリサラヴィ (フィジー)

ブラ！私の国では人と会うとこう挨拶します。私はワイシア クリサラヴィです。南太平洋のフィジー島から来ました。私は29歳です。9ヶ月の娘がいます。私は農業と教育を専門とする教員研究生です。私は最初の5ヶ月日本語集中講座で勉強しました。今は和歌山大学教育学部で研究して

います。

来日する前、私は5年間スヴァ中学校で教えていました。学生達が将来成功するため、指導する仕事は難しいけれどとても価値のあるしごとです。

日出ずる国、日本が私を国費留学生として勉強する機会を与えてくれたことに感謝しています。このプログラムで学んだことは帰国した後、きっと役立つでしょう。

この6ヶ月間私はいろいろなことを経験しました。特に雪には感動しました。日本の生活にはまだ慣れませんが、自然環境の美しさ、人々の温かい心は私を励ました。ボランティアの人たちは留学生の大きな助けになっています。どうもありがとうございます。

張 瑩(中国)

私は張瑩(エイ)と申します。中国の大学で、国際と貿易を専攻として勉強していました。もっとたくさんの知識を身に付け、自分の素養を高めるために、大学を卒業してから日本に来ました。

日本に来てもう2年です。最初の1年間に専門学校(日本語のコース)で日本語を勉強していました。去年、京都府立大学で研究生として1年勉強しました。日本で進んだ経済理論を学び、視野を広げるために和歌山大学の受験を受けました。今、和歌山大学の経済学研究科で勉強しています(大学院1年生)。私は世界の各国へ行きたいです、各国の人と友達になりたいです。そして、美味しい料理を食べられる、食べることが大好きですから(しかし、いつも食べ過ぎる)。本と映画も好きです。

皆さん、よろしくお願いします。

史 薇薇(中国)

私は史薇薇と申します。中国から来ました。薇とは、中国語では、野草の一種です。母は、娘が野草のように、盛んな生命力をもって、生き生き暮らすと期待して、この名前をつけてくれました。

私、確かに野草のように、子供からどんなことにあっても、ずっと頑張って、頑張って、やっとこの度、この野草は日本に来ました。それは、夢みたいなことですね。WIN コンコードのみんなのおかげで、日本に着いたばかりの日には、新しい布団や枕などがもう部屋に置いてありました。私にとって、本当に助かりました。すぐ便利な生活ができますから。

昔から、ずっと日本の音楽が好きです。日本に来てから、いろいろな音楽を楽しみました。流行

歌はもちろん、日本の演歌も好きです。特に、美空ひばりの「川の流れのように」が大好きです。曲も、歌詞も最高だと思いますから。

来日の二日後、日本人の友達によると、和歌山は、癒し県と言われるそうです。私もそう思います。今まで半月間だけ住んでいますが、それをしみじみ感じています。自然もいいですし、町もきれいですし、そして静かです、大都市と違って、和歌山市は、特別な静かさに覆われています。人々は、心の悩みと苦しさちゃんと忘れていたように暮らしています。それはなによりではないでしょうか。

このような都市に、一年間だけ住めては、本当に足りないと思いますから、今度の留学を大切にしようと思います。

王天鵬(中国)

わたしは王天鵬と申します。今年和歌山大学経済研究科に入学しました。地元の人ではなくて、こちらに知っている人が少ないです。でも、今から頑張ります。

遊びが大好きです。歌を歌うけれども、七律不全で、スキーを滑るけれども、立てる時間ほぼ「0」で、泳ぐけれども、海水がいつも満腹です。

「あいつといると安らげるんだよー、あいつどこに連れてっててもはずかしくないんだよー」って言わせる人になることが一番大事なかなと思います。

今、いちばん悩んでいることは毎日いくら食べても、なかなか太らないことです。食糧がもったいない、苦しかったです。

皆さんも、各自いろいろな悩みがあるのでしょーう?一緒にしゃべって、困難や悩みがあっても、乗り越えましょう!

皆さんと一緒に楽しく過ごしましょう



卒業生からのメッセージ

さようなら、さようなら

コリン・マデメ (南アフリカ)



18ヶ月前、私はどんなことになるのか全く分からないままに日本にきました。私が日本について知っていたのは、以前に読んだ少しの本や見たことのある少しの映画（例えばラストサムライやKill Bill I など）から知ったほんの少しのことだけでした。私は日本語を一言も話さないアフリカ人でした。日本食もほとんど食べたことがありませんでした。（一回日本風の魚を食べましたがそれは日本料理のうちに入らないと思います。）新しい領域を探索する勇気がありましたが日本に來ればたくさんの挑戦が待っているとはほとんど考えなかったのも、私は何の準備もしていませんでした。何となく日本人は英語が話せると思いこんでいました。どうしてそう思ったのか分かりませんが、日本に來て次の週には、英語を話せる日本人はほとんどいないということが分かりました。言葉の壁は最大の問題となりました。言語理解がもっと良かったら、さらにもっと充実した経験を積んでいたと今私は分かっています。だが、礼儀正しく親切な日本人は私の語学力の不足を補いました。私はこれまで日本人ほど暖かい人達にあったことはありません。

私は日本に來て最初の5ヶ月間、三重大学で日本語を勉強しました。月曜から金曜まで毎日宿題があり、5年くらいの年月に感じました。最初の4ヶ月はとまどいでしたが、箸の持ち方が分かる頃に和歌山に移ることになり、ここで日本史と国際関係を1年間勉強することになりました。日本のことが分かってきたのは和歌山に來てからでした。

私の和歌山での体験をもとに日本を評価しなければならぬとすれば、日本の人々は世界中で一番暖かい人々だと言えます。勉強の合間に国内を旅行しました。四つの大きな島のうち、四国だけは一度も行ったことはありません。私の旅行の中で一番印象深かったのは、日本の均一性でした。南アフリカでは100km旅行すれば異なる文化や異なる言語の地域に入ります。日本は単一言語の社会であり、日本語は基本的に唯一のコミュニケーションの手段なので、日本語なしに生きていくのは難しいということが分かります。このことは言語に関してたくさんの選択肢のある私の国とは大いに異なります。もしあなたがある言語が分からなくても、双方が理解できる言語にすればよいのです。

私が全く予期していなかったことの一つは日本の夏でした。これは私が日本へ戻ってきたくないと思う唯一の理由です。私はアフリカ人ですから暑さに慣れていると思われるでしょうが、南アフリカの暑さは日本と違います。乾燥していて、陰は涼しいのです。日本の湿度は私には初めてのことでした。様々な汗に関係あるアレルギーになっていました。私は2ヶ月で、南アフリカでの32年分以上の汗をかきました。私は絶対に日本の夏は嫌いです。暑さの他には、日本は他の国が成功を求めて見習うことが出来る模範であると信じます。人々はとてもよく働きます。電車は時間通りに発着します。もし時間を守ることが信仰だとしたら、私は南アフリカへ持って帰りたいと思う。

日本は歴史や天然資源、国土に関して恵まれていないが、国民は持てる少しのもので最善を尽くしています。日本人は他の国々やその生活についてもっと知りたいと思っています。彼らの唯一の障害は言葉です。語学力の不足が日本人の気の弱い態度の原因となると思います。「日本人が何を感じているのか何を考えているのか分かりません」と外国人からも日本人からも聞いていました。感情を出さない人が人間のように喜びと悲しみを感じるのを忘れがちです。私の経験では、日本人はとても人間味のある人だと思います。私の和歌山での経験を素晴らしいものにして下さったWINコンコードに感謝します。私の生活に関わってくれた和歌山の人達は私に忘れられない感銘を与えてくれました。一方私はプレゼンテーションと講座を通して、明るい未来と有望のある南アフリカを明らかにすればよかったのだと思います。ありがとう

第二の故郷—和歌山

詹 珣珣 (台湾)



今年の三月には、和歌山での留学生活が終わります。和歌山にいる三年間を振り返ると、良い思い出、楽しい思い出、忘れられない思い出がいっぱいあります。

正直に言うと、留学する前に、和歌山に対する認識が足りず、和歌山での生活に不安が胸に広がりました。しかし、和歌山に来て、WIN コンコードの方々や、和歌山の住民と触れ合うことができて、皆の優しさおよび親切さのおかげで、心の不安が消えました。それにつれ、私は和歌山に恋しています。東京や他のところに旅行しに行つて、すぐホームシックになって、早く和歌山に帰りたと思いました。そのときに、台湾ではなく、和歌山に帰りたという気持ちに気が付いて、自分は相当に驚きました。さらに、台湾に一時帰国しても、和歌山に帰りたと思ったことが何度もありました。いつの間にか、心の中に、和歌山の存在がこんなに大きくなりました。

なぜ私は和歌山に恋をしたのかを、考えてみました。それは人情味です。地元の台北と違って、和歌山は人が少なく、静かで、のんびりと暮らせる町です。和歌山に引っ越したばかりのことで、和歌山市内を一人でぶらぶらして、地図を開いて、行き先を探しました。それで、あるおばさんが私のそばに来てくれて、行き方を詳しく説明してくれました。これだけではなく、私は家の近く布団屋さんで布団を買いました。布団屋さん

のオーナーさんは布団を家まで布団を持ってきてくれて、コーナンまで買い物を連れて行ってくれました。その後、WIN コンコードと出会えて、和歌山人の良さをどんどん分かるようになりました。

人情味以外、和歌山に恋をしたのは自然です。和歌山は自然に囲まれて、山にも海にも近いです。市内から、車で15分くらい行ったら、海辺に行けます。市内に海辺がある県はどこにあるでしょう。そして、和歌山には有名な山があります。それは世界遺産に登録された高野山です。高野山の四季を味わうのは楽しいです。四季のなかで、私は高野山の冬が好きです。お寺の屋根や庭に積もった雪とお寺が一体になって、まるで絵葉書に載っているような景色です。その景色を見て、胸の奥から感動しました。高野山に行つたことがない人と会ったら、必ず高野山の良さを教えます。皆にぜひ行ってみてもらいたいです。

3月から和歌山から離れて、大阪で暮らし始めました。離れてみれば、和歌山の良さがどんどん懐かしくなつて、堪りません。私は和歌山の子として、和歌山に誇りを持っています。皆さんも和歌山のこれからの成長を見守りましょう。

2005 年度 活動経過

- | | |
|----------|--|
| 4月9日 | 新入生歓迎花見 (和歌山城) |
| 5月14日 | WIN コンコード総会・交流会 |
| 5月15日 | 和歌祭 |
| 7月31日 | ぶんだら踊りの練習 (公館) |
| 8月6日 | 紀州ぶんだら踊り |
| 8/20~21日 | サマーキャンプ (清水町) |
| 10月10日 | 第11回留学生の故郷を語る集い |
| 11月6日 | 和歌山大学祭 模擬店協力 |
| 12月10日 | 和大スピーチコンテスト後援 |
| 12月23日 | 八朔狩り・植物公園緑花センター |
| 1/1~3日 | お正月 (ホストファミリー) |
| 2/20~21日 | トヨタ見学とスキー旅行 (ひるがの高原) |
| 3月4日 | 第12回留学生の故郷を語る集い |
| 3月24日 | 卒業生を送る会 (ゲストハウス) |
| 年間 | 住宅紹介・入居・転居の支援
生活用品の貸与、生活情報提供
ホストファミリープログラム |

※ 留学生は学生証と外国人登録証明書を呈示すれば和歌山県立美術館、博物館、紀伊風土記の丘、自然博物館に無料で入場できます。



もっと素敵な女性に成長しますよ



今年の和歌祭もいいお天気です



ぶんだら踊りの楽しさを世界に伝えよう...



いつ出場できるの？もう待てないよ～



動かない!!ダイエットされたら?



緑に抱かれて、穏やかな気持ちになる



いらっしやいませ



おいしい料理と爽やかな笑顔



熱いお茶で暖まったよ



世界遺産のすばらしさに出会えました



乾杯~♪



一緒に雪だるまを作ろう



待ちに待ったスキー旅行



私たちは皆TOYOTAのファンです



野菜を収穫する時の喜び



日本のおせち料理は最高～



Everybody....Dance! Dance!



インドネシアの踊りを披露



先輩たちは無事に卒業できました



和歌山県公館で～



この一枚の紙がとても重いですよ!

WINコンコード設立趣意書

現在社会は、政治・経済・文化のすべて分野で地球を一つの単位として捉え、はじめて、その機能を十分に発揮しうる状況に至っていると思われます。そして、このかけがえのない地球の責任を担っているのは、たった一つの「種」に留まる「ヒト」即ち人間であり、その一人一人の人間が確立された個として、地球の貴重な構成要素としての役割を果たすことが求められています。民族の違いは、多様な文化の豊かさを示すにすぎず、国境は行政を効率的に行うための境界にしかすぎないのです。

WINは、人間の知恵を結集し、愛すべき郷土和歌山が、人間味溢れるネットワーク（HAN Human Active Network）で結ばれた、活性化された地域となるために活動するものです。そして世界各国から勉学の間を求めて留学して来る人々に、より良い環境を整えることは、ひとつの単位となった地球上に「HAN」を構築するうえにおいても重要なことであり、これにより、地球のひとつの地域である和歌山が、世界とダイレクトに結びつき、和歌山の優れた文化が世界に紹介され地球の多様で豊かな文化環境の醸成に寄与できるのではないかと考え、我々は、WINコンコードを設立するものです。

WINコンコード事務局

〒640-0103 和歌山市加太2201-339

TEL073-459-3888 FAX073-459-3889

HP: <http://www.wakayama-info.net>

E-mail: win@infonet.co.jp